

自立できる農業の一環として開園

木下ファーム「三原ブドウ園」

㊦KGGホールディングス㈱木下グループ(佐伯区五日市町石内、田中敏彦社長)の㊦木下ファーム(住所・社長同)は、今春から手掛けていた「三原ブドウ園」(三原市大和町大草74-19)を5日にオープンした。



今年1月に取得した約4畝の農場の内の約1畝でブドウを栽培。観光ブドウ狩り(摘み取り・量り売り式)と贈答用として販売する。腰の高さにブドウを実らせるマン

ズ・レインカット方式を採用し、現在、藤稔(ふじみのり)、安芸クイーン、ピオーネ、高妻(たかつま)などが収穫時期を迎えている。

1日に行った開園セレモニーで田中社長は写真には「自立できる農業を目指して発足した木下ファームが新たに参画したブドウ事業。これまで圃場を漸進されてきた皆様の期待に応えられるよう誠心誠意努めていく。若者の農業従事や雇用の創出、中山間地の活性化など、システム構築を考え、社会に役立つ農業に挑戦していきたい」と語った。同園の一般開園時間は午前10時〜午後3時。価

格は1キログラム1500円(税別)。贈答用箱は1キログラム2房入、2キログラム4〜5房入。完売をもって閉園。電話0847-3412370。